（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	一般社団法人ハンズハンズ　未来育デイ			
○保護者評価実施期間	R6年12月10日		～	R7年1月10日
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	18名	（回答者数）	13名
○従業者評価実施期間	R6年12月10日		～	R6年12月27日
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	7名	（回答者数）	7名
○事業者向け自己評価表作成日	R7年2月10日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	一人一人の特性、性格を把握し、理解した上で支援を検討することができる。	氷山モデルや応用行動分析学の考え方を用いて、こどもの行動を客観的に分析し、行動の裏の気持ちやその行動に至るまでの経緯を把握した上で、適切な支援を検討している。	療育や保育に取り入れられるさまざまな考え方、方法などを職員自身が常に勉強することで、支援のバリエーションを増やしていきたい。
2	視覚支援を取り入れた支援を積極的に行っている。	一人一人のこどもの視野、興味、理解度にあわせた視覚支援のシートやポスターを作成している。	視覚支援の必要性について適宜検討し、より現在のこどもの状況と、視覚支援を取り入れることで期待される姿について正しく把握し、支援を考えることができるようにしていきたい。
3	職員間の風通しの良さ	デイ利用者に対するどんなに小さい出来事でも、こまめに共有するようにしている。こどもの姿を多角的に捉え、より客観的に把握することができる。職員間ですぐに相談しあえることで、支援に対する困り感を1人で抱え込んでしまうケースもほとんどないため、心にゆとりをもった肯定的なかかわりをすることができる。	非常勤職員が常勤職員と同じ情報量を扱うのが難しいため、理解度に差が出てしまうことがある。前回出勤していなくてもその子のことを正しく把握することができるよう、情報伝達システムを構築していきたい。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	横のつながりがあまりないため、独自の取り組みが多い。	ハンズハンズ内で放デイは1つのみであり、市内の施設との交流の場もあまりないため、支援や仕組み等に関する相談等をする場がほとんどない状況になっている。	市の研修会や協議会等に積極的に参加し、顔見知りの支援者を増やし、積極的に情報交換、意見交流をしていきたい。
2	バリアフリーの空間づくりが難しい。	現在事業所として使用している建物は、元々障害者施設を運営するための建物でないため、バリアフリー化や構造化が難しい箇所が多い。（階段、玄関など）	こどもたちの特性を把握し、危険な場所には必ず職員が付き添ったり、机の配置を変えたり、視覚支援のポスターを掲示したりすることで安全に過ごすことができるように環境設定を工夫している。できるだけ死角をなくし、職員の目が行き届くよう配置を工夫している。
3	子育て支援、家族支援に弱い。	常勤職員は子育て経験がなく、家族など身近に障がい児者がいる環境も経験がないため、ご家族の気持ちや状況に寄り添うことが難しいと感じる。保護者より年下でもあるため、寄り添って共感することは意識しているが、助言することに関して、説得力に自信が持てない。	研修会や書籍、資料等から、障がい児者の育ち、地域での暮らし、障害福祉サービス等の知識を身につけ、自信をつけていきたい。